

1 自己評価

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070300324		
法人名	医療法人 医和基会		
事業所名	グループホーム金刀比羅	ユニット名 3階	
所在地	福岡県北九州市戸畑区金比羅4-29		
自己評価作成日	平成24年11月26日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月17日	評価結果確定日	平成25年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今年度は「原点に戻ろう」をテーマに現在行っているケアや関わりについてその意味をもう一度深く見つめ直す事にしました。過ぎていく毎日の中で今まで忘れがちであった事をもう一度見つめ直し原点に戻る事で生活がより豊かになるよう取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>（この欄は外部評価機関からのコメントを記入する欄です。記入がない場合は、この欄を空白にしてください。）</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は各所に掲示して意識が高まるようにしている。お一人おひとりを尊重するために日々努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する建物の行事に参加したり、散歩中に挨拶を交わしたりしている。避難訓練や、推進会議などで自治会の方の協力も得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議にて取り組んでいる事を話し、理解して頂けるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回の運営推進会議を開催。入居者、ご家族、地域の自治会の方にも参加してもらい、サービス向上の為のご意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方と、推進会議にて取り組みについて伝え、意見を頂いたり、相談や情報収集を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に勉強会を行っている。交通量も多く、近くに山もあるため、入居者様の安全を第一に考え、ご家族の了解のもとエレベーターを施錠しているが、閉塞感のないよう努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、職員への理解と意識向上に努めている。また、介護主任、フロアリーダーが日頃より注意を払い、防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等権利擁護に関する研修に職員が参加し、勉強会を通して全職員が学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分説明し、改定時は、文書や、面会時又は電話にて説明し理解、了解を得ている。また、疑問点など、いつでも問い合わせできる状況を作っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、運営推進会議等で、ご意見、ご要望を伺っている。また、積極的にコミュニケーションをとり、話しやすい関係づくりに気をつけている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催されるスタッフミーティングにて、現状の問題点改善点をあげ、速やかに反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの得意な事が活かせるように役割分担している。法人からは永年勤続者への報奨金の支給や資格手当、介護職員処遇改善加算による特別手当を支給するなど配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢は問わず採用し、本人の希望や能力を活かせる様配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修や勉強会の場を通して、知識を深められるように取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量、特性等を把握し、それに合った研修への参加の機会を設けている。また、定期的に研修報告会及び勉強会を行い、全職員のスキルアップに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「交流会」と称し近隣の他事業所の職員と意見交換を行っている。また、行事の際は、他事業所の方を招き、交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず担当者会議を開催し、ケアプランや入居後の対応に反映させている。入居当初は心がけて声をかけ、不安を和らげ生活出来るようにしている。また、職員間での情報の共有が出来るように心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず担当者会議を開催し、ご家族の気持ちや希望を伺いケアプランや入居後の対応に反映させている。入居後の様子も細かく報告するように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じてショートステイを紹介している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活で職員が学ぶことが多い。お彼岸のおはぎづくりを教えてもらったり、入居者の得意な面が発揮できる場を意識的にもち一緒に生活している。人生の先輩として尊敬することが多い。また、気軽に冗談を言い合うときは幸せを感じます。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には情報交換を密に行い現在の状況と入居者の想いを共通理解して今後の対応を共に考えるようにしている。写真やお手紙を郵送したり、行事への参加をお誘いする事もあります。面会時に、一緒に散歩をお願いすることもあります。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状郵送を支援して、友人や親戚の関係が途切れないようにしている。また、ご家族に入居者の写真を毎月送っている。以前住んでいた懐かしい場所にドライブに行く事もある。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子を観察し、配慮している。また、レクリエーションなどみんなで活動し関われる場をもっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせや相談等、利用契約時と変わらぬ対応でおこないます。又、必要に応じて関係機関・関係施設へお繋ぎします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月ごとのアセスメントシートを作成し、職員・家族を含め、担当者会議を開いている。また、日々の会話の中でヒントを探したり、ご家族に昔の事を尋ねたりしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にそれまでの暮らしを把握するために用紙を用意して、記入している。生育歴も出来る範囲で聞くようにしている。入居後も、談話や家族の面会時に情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察を行い、ケース記録に記入して申し送る。また職員全員がケース記録に必ず目を通す事で情報の共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートをもとに、ご家族・本人・職員を含めた担当者会議を開催し、話合って介護計画を作成している。面会のタイミングが合わなかったご家族には必ず電話にて現状を説明し、要望等を伺っている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をケース記録に記入し情報を共有している。毎月ケアプラン評価表も記入して、次の計画作成に役立てている。早急に改善する必要のある事については、職員で話し合い、一定の方針のもと実践し、解決策を探すようにしている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	金比羅池の散歩コースを利用している。地域のダンスサークルに来てもらい、ダンスを觀賞したり、教えてもらったりしている。近隣店舗の牛乳パックのリサイクル活動に参加している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの金比羅池まで散歩に行ったり、スーパーに買い物へ行く等している。またボランティアの方の訪問もありダンス等を楽しんでいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所が隣接しており、定期的に回診・受診を行っている。また、週に一度訪問診療も行っている。状況に応じてすぐに受診を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	金刀比羅診療所と契約し、24時間連絡可能な体制である。気づきや異変時は、相談しアドバイスや指示を仰いでいる。緊急時は診療所・協力病院への受診や看護が受けられる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカー、看護師長等、リハビリスタッフと情報交換を行っている。入院中も面会に行き、状態の把握や、情報提供するように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」を確立して、入居時にご家族にも説明して、ご家族と職員全員で協力体制を整えている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会を設置し、定期的に会議、勉強会や訓練を実施している。マニュアルを作成している。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、定期的な勉強会を行い、意識するようにしている。また、近隣施設や、地域の方にご協力いただき定期的に避難訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格やプライバシーに配慮しながら声かけや対応を行っている。定期的に勉強会を行い、新人職員にも指導している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりに合った声かけの仕方を工夫している。飲み物の希望や、レクリエーションの参加など、ご自分で選択できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ決まり事を作らず、その日の心身の状態や、お一人おひとりのペースに合わせて対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容の訪問があり、希望者の方は利用されている。朝の整容、身だしなみの支援はできている。入居者と一緒に服を買いに行く事もある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は準備から片付けまで一緒に行っている。麻痺のある方や、男性入居者にもできる事をしてもらっている。お正月やお盆には、それにちなんだ懐かしいおやつ作りもしている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導により栄養バランスのとれた食事を提供している。食事量、水分量は毎日記録している。パンや麺類が苦手な方には代替として米飯を提供している。食事が進まない時は、嗜好品も活用している。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、うまく磨けていない方は介助している。また、口腔内に異常がある時は歯科受診の体制を整えている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、事前の声かけを行っている。失禁のあった時は、プライバシーに気を配り介助している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりにあわせ飲食物を工夫して提供したり、適切な運動や散歩により体を動かしてもらい予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数や時間は希望に沿うように行っている。基本的に1対1で介助し安心してゆっくりと入浴してもらえるようにしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態により日中でも居室で休んで頂く事がある。生活パターンを考慮して、声かけのタイミングを図る。夜間に不安を訴え眠れない時は、そばで話を聞くようにしている。自然な眠りにつけるように、昼間に体操や散歩を取り入れるなど個別に対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はすべて保管しており目的用法を把握し疑問点があれば即座に主治医及び薬局に問合せしている。日々の小さな変化も見逃す事のないように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの得意分野や経験、能力を活かした活動をしている。誕生会、レクリエーション、散歩、ドライブ、買物などを行い交流も深めている。		

福岡県 グループホーム 金刀比羅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は周辺に散歩に出かけている。コンビニや本屋へ買物に行く事もある。四季にあわせてお花見や、ドライブ、コンサート等に出かけている。温泉など職員が対応できない所はご家族が協力してくれている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望にそって買物に出かけたり、ご家族の同意のもと少額の現金の所持は自由にされている。また、ご自身で支払いをされる方もおられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり届いた品物のお礼等の電話を掛けたり、手紙のやり取りも希望に沿って行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは一定の温度を保ち、採光にも配慮している。観葉植物を置いたり、花を飾ったり明るい雰囲気になるよう心がけている。壁面には、季節の行事にあった飾り付けをしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを利用したり、娯楽室でのんびりしてもらったり、それぞれが落ち着く場所で過ごしてもらっている。たまには、食事の席を替えたりもしている。スタッフや気の合った入居者同士で話したり、テレビを見たりされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の品、使い慣れたタンスなど馴染みの物を置き、また、家族や職員からのプレゼントなどを飾る事で心の安定に繋げている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具、テーブル、ソファーについては工夫した形で配置している。また、出来る事を活かせる様、生活雑貨など目につきやすいところにあり、家事等しやすいようにしているが、安全には十分配慮している。		